

ヒオウギ養殖試験

当真 武・照屋 忠敬・金城 盛徳
新里 喜信・島袋 新功

目的および内容

羽地内海は県下でも数少ない内湾的特性をもった生産力の高い海域である。このような海域においては、ヒオウギ貝の養殖試験を行い、養殖場の適地選定と漁場造成を検討する資料を得るための基礎調査を行う。

羽地内湾の水路域、湾中央部と湾外において、チョウチンカゴ収容個体数、50個、100個、150個区を設定し1980年7月下旬から翌年1月まで垂下試験をした。

①16mm稚貝を7月下旬から半年間垂下養殖すると、水路域で約5.5cm、湾中央部で約5.6cm、湾外で約4.5cmの成長(殻高)を示した(図-1~図-3)。

②収容個体数 50個、100個、150区間ではあまり差がなく、生残率も約60%である。

③本県の冬期水温はヒオウギにとってはむしろ適水温期にあり、養殖管理は夏期の高水温期に注意する必要があると思われる。

④養殖カゴへの付着物の種類はフサコケムシの仲間とホヤ類が多い。付着量は湾奥部、水路部、外海部の順に多い。

⑤湾内の浮遊有機物量は約1mg/lであり、湾外は0.5mg/lである。

⑥羽地内海への海水の流入と流出は主として水路をとうして行われ、湾奥部はとくに水塊の移動が少なく上層と下層の2重構造を形成しやすいと推定される。

⑦羽地内海はかなり富栄養化された海域である。

なお、詳しいことは沖縄総合事務局委託の「昭和55年度沖縄特定開発事業推進調査、珊瑚礁海域魚場開発計画調査結果報告書」77pp、に報告してあるので省略する。

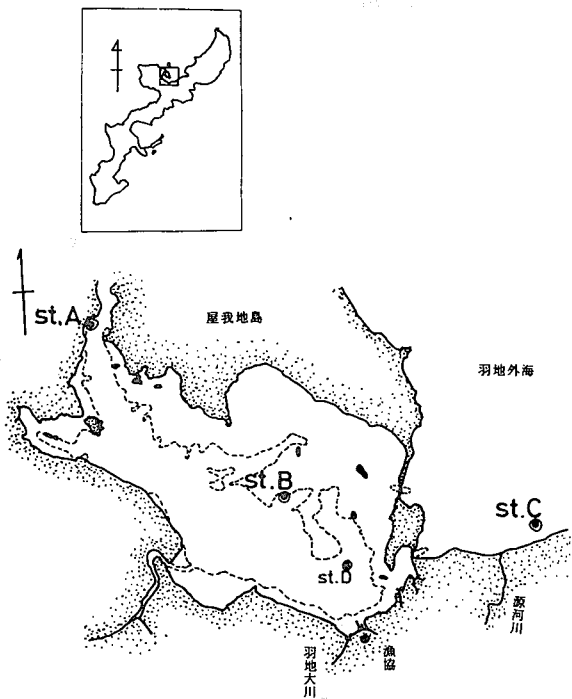


図-1 測定点の位置

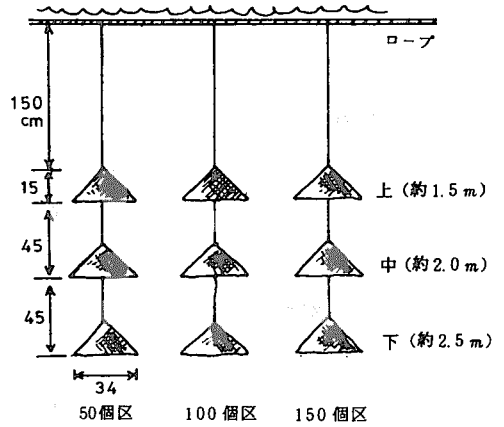


図-2 チョウチン籠の垂下方法

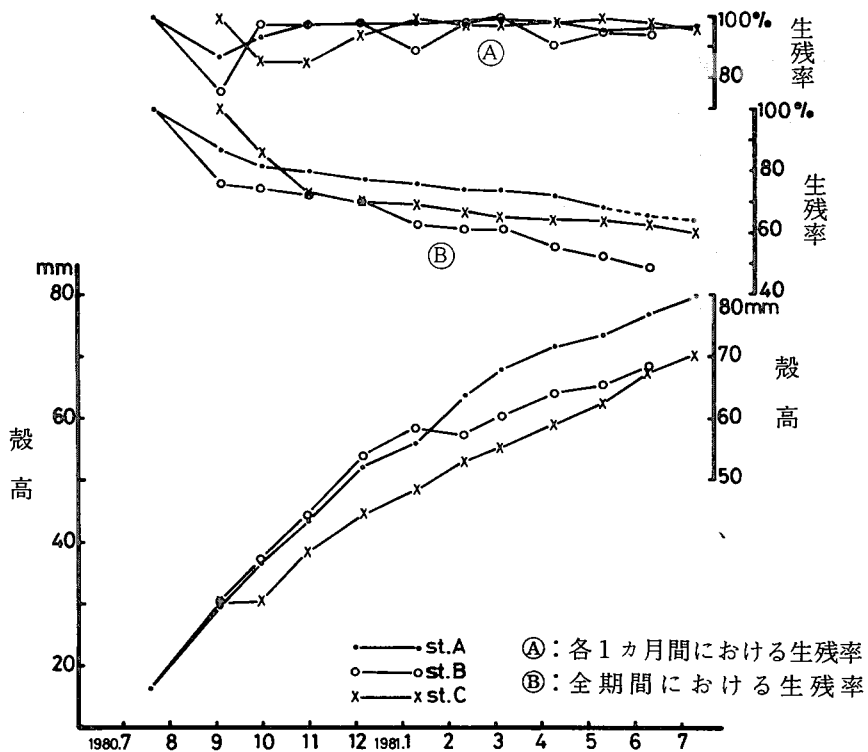


図-3 各垂下地点における50個区の成長と生残率

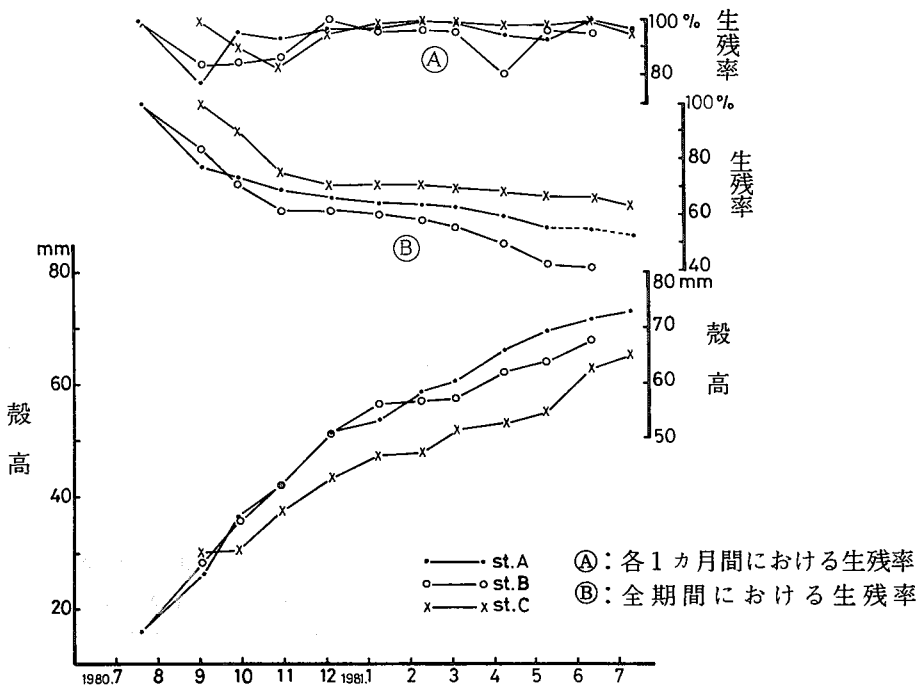


図-4 各垂下地点における100個区の
成長と生存率

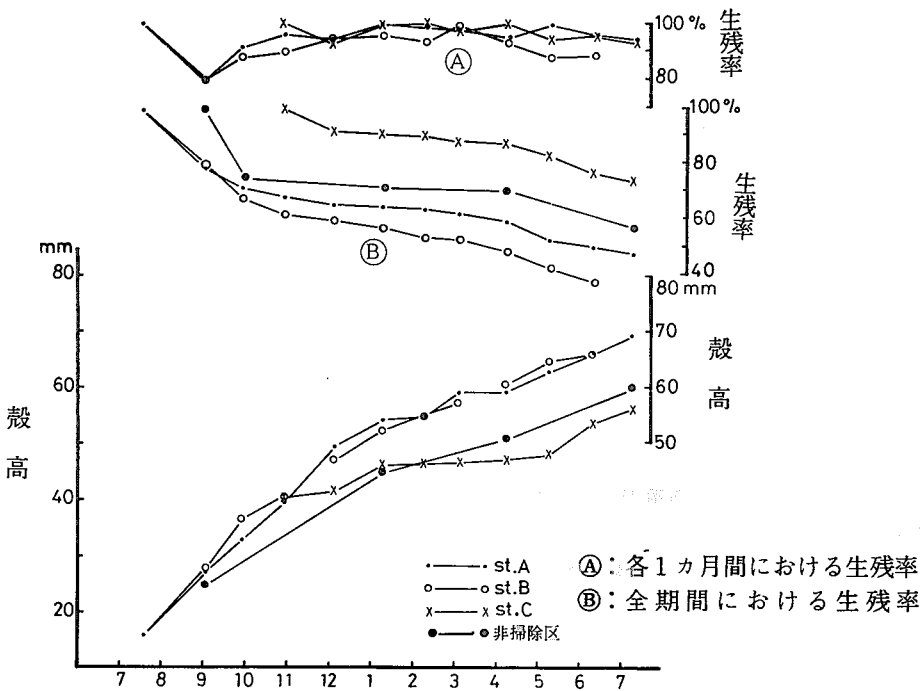
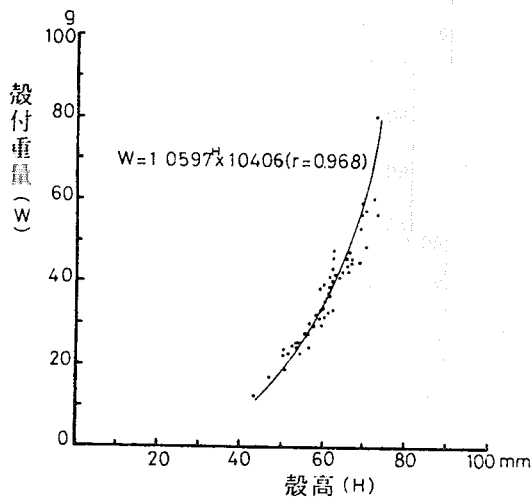
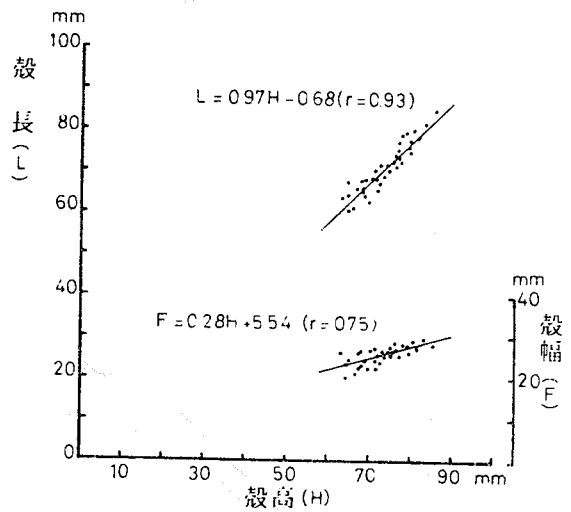


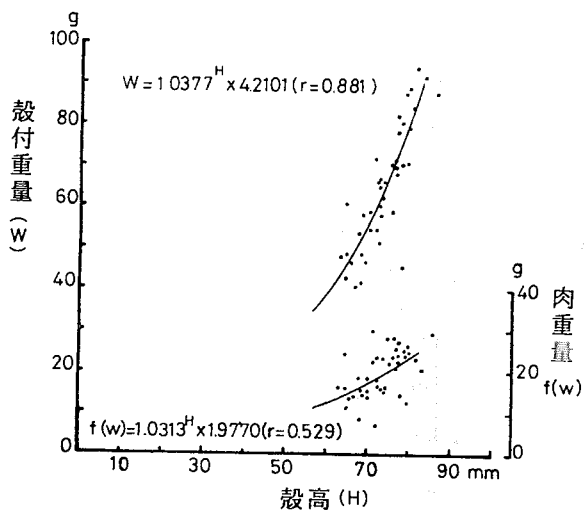
図-5 各垂下地点における150個の
成長と生存率



図一六 穀高 (H) と穀付重量 (W) の関係
 <St.A.の 1981. 1. 8 現在>



図一七 穀長・穀高・穀幅の相関関係
 <St.Dにおける養殖業者からの標本抽出による結果 1981. 1. 21 現在>



図一八 穀高 (H)・穀付重量 (W)・肉重量 f (W) の相関関係
 <St.Dにおける養殖業者からの標本抽出による結果 1981. 1. 21 現在>